

## 平成22年度企画事業

# 「海は宝物！みんながひとつに！！」報告書

### 1. はじめに

平成19年度から平成21年度まで中国ブロック内の4つの国立青少年教育施設が連携して役割を分担し、発達段階に対応したリーダー的力を形成するプログラムを開発した。(平成22年3月発行「発達段階に応じたリーダー養成プログラムの開発と試行」報告書)

国立江田島青少年交流の家では、この報告書をもとにして今年度の企画事業や研修支援事業の指導をおこなっており、今回の事業は、小学生年齢段階の調査結果(国立吉備青少年自然の家)を参考に実施したものである。



### 2. 事業概要

趣 旨：何らかの事情により母子世帯となった子どもに、一定期間集団での規則正しい生活や海辺の活動を通して、自己肯定感や自信を醸成していく。

日 時：第1回 平成22年8月25日(水)～27日(金) 2泊3日

第2回 平成22年9月18日(土) 1日(日帰り)

参加人数：第1回 小学生14名，施設職員4名

第2回 小学生11名，施設職員2名

### 3. 実施体制

(1) 実施主体 国立江田島青少年交流の家

(2) 連携組織 広島市こども未来局 こども・家庭支援課

財団法人 広島市母子寡婦福祉連合会

社会福祉法人 広島和光園(母子生活支援施設)

#### 【第1回実行委員会】

社会福祉法人広島和光園と共催して行う本事業の説明及び意見交換を行い、委員からは、母子世帯のみならず一般の養育世帯の現状と課題として「生活感のない家庭が多く、朝食を食べない、夜更かしをするなど課題がたくさんある場合が多い。さまざまな場面でのふれあいを通して社会性を養っても

らいたい。」との要望が出され、「食事」「掃除」「入浴」などの基本的な日常生活が自分たちできちんとできる力を育成する「基本的な生活習慣の確立」を基本としたプログラムを作成した。

#### 【第2回実行委員会】

委員から「『基本的な生活習慣の確立』を基本とした今回の事業がアンケート結果から子どもたちの成長につながっている。今後は他施設にも広げてもらいたい」との要望が出され、次年度の事業についての意見交換がされた。

#### 4. プログラム作成上の留意点



※1 国立江田島青少年交流の家の生活信条「規律正しく」「仲良く」「真剣に」

※2 集団における合意形成過程を体験・実感させるために掃除・食事・入浴の方法を「グループ指示書」により確認した

「グループ指示書」  
 (入浴の手引き 抜粋)

お風呂の入り方～極意十か条～



- ① 男子は「大浴室」、女子は「中浴室」(大きなひまわりの「のれん」が目じるしです)に決められた時間になったら向かい、くつを「くつ用ロッカー」に入れて、脱衣所に入ります。
- ② 空いている更衣ロッカーを探し、服を脱ぎます。(服はたたんで置く)
- ③ お風呂道具(石鹸・シャンプー・タオル)を持って浴室に入り、空いている洗い場を探し、お風呂道具を鏡の前に置いて、入口横の洗面器とイスを運び揃えます。

5. 事業プログラム  
 第1回プログラム

【第1日目】 8月25日(水)

11:40		12:10		12:40		13:30		14:25		17:00		18:30		19:00		20:00		20:50		21:30	
	開講式	宿泊室に	昼食	休憩	指示書の説明	片付け・	休憩	入浴	海ホテル	活	就										
		移動	レストラ		(入浴)	周辺掃除		指示書	観察	動	寝										
	アンケート		ン店長の		野外炊事			の確認	他の小学	ま											
	ト実施	指示書の	説明		(シチュー等)	指示書の			校と一緒に	と											
		説明	指示書		指示書 確認	説明		休憩		め											
		(食事)	確認			(掃除)															

【第2日目】 8月26日(木)

5:00		6:45		8:45		9:30		10:45		11:20		12:00		12:50		14:00		15:30		16:50		19:30	
起	カプトム	野外炊事	掃除	休憩	お弁当	水晶山	昼	休憩	布団	ペット	夕食	ペット											
床	シ探し	ごはん	片付け		づくり	登山	食		干し	ボトル	入浴	ボトル											
	朝の海岸	味噌汁	指示書		指示書		お		片付け	キャン	指示書	キャン											
	散策	指示書	の確認		確認	頂上に	に		指示書	ドル	確認	ドル											
		確認				全員が	ぎ		確認	づくり	テント	点火											
						登る	り				移動	就寝											

【第3日目】 8月27日(金)

6:40		9:00		9:30		11:00		12:00		13:00		14:00		14:20	

起床	片付け 朝食 掃除 指示書 確認	荷物 移動	ザリガニ 釣り	休憩	昼食 指示書 確認	まとめ アンケート 実施	閉講式	
----	------------------------------	----------	------------	----	-----------------	--------------------	-----	--

第2回プログラム

9月18日(土)

	10:10	10:30	12:00	12:20	12:30	14:30	15:30	16:00	
	宮の原港 到着 注意事項 指示書 説明 (掃除)	釣り	片付け 指示書 確認	移動	野外炊事 魚料理 指示書の 説明 (食事) 昼食	片付け・ 周辺掃除 指示書 確認	まとめ アンケート 記入	解散	

6. 事業の評価

【評価方法】

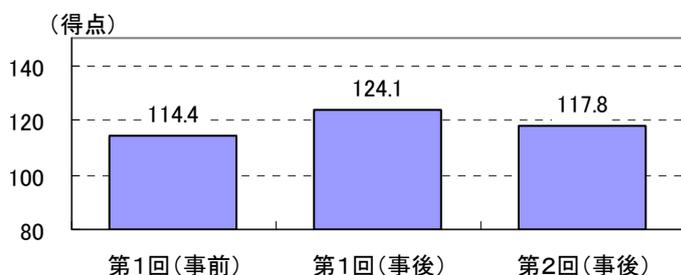
- ①『IKR評定用紙(簡易版)』参加者アンケート  
事前：8月25日(水) 事業開始前に実施  
事後：8月27日(金) 事業終了後に実施  
追跡：9月18日(土) 事業終了後に実施
- ②観察評価(交流の家職員・施設職員)
- ③観察評価(事業後 施設職員)
- ④保護者評価(事業後)



ペットボトルキャンドル  
(テント周囲の灯として利用)

【評価結果】

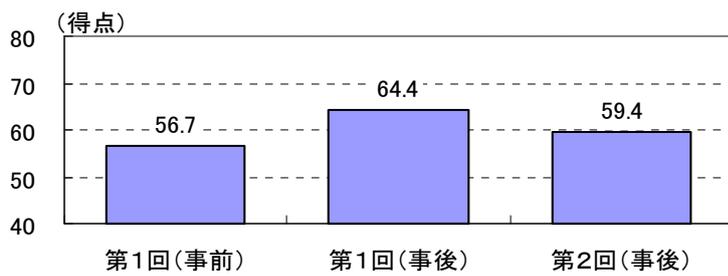
- ①『IKR評定用紙(簡易版)』参加者アンケート結果  
「生きる力」の平均値の推移



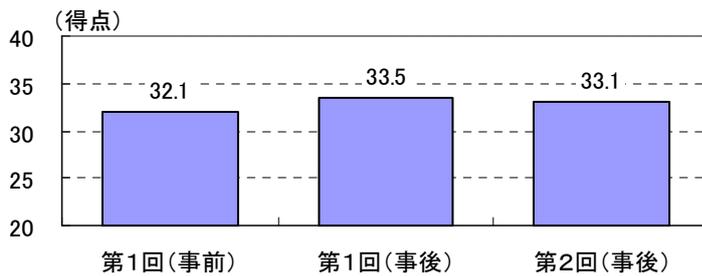
- 「心理的社会的能力」の平均値の推移



ザリガニ釣り

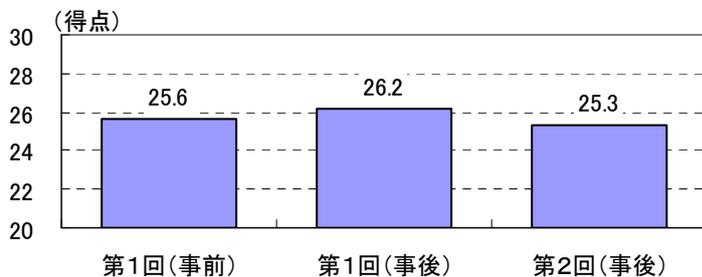


「徳育的能力」の平均値の推移



みんなで掃除

「身体的能力」の平均値の推移



②観察評価結果

〈交流の家職員〉

- ・ 2日目の施設周辺にある水晶山への登山では、小学校6年生がリーダーとなり、声をかけあい協力して小学校1年生も頑張って頂上まで登ることができた。
- ・ 2日目のテント泊では小学校6年生がリーダーとなり、荷物移動では率先してリヤカーを使って運搬など行動していた。
- ・ 3日目のザリガニ釣りでは昼前の暑い時間帯ではあったが、最後まで活動を頑張った。

〈母子生活支援施設職員〉

- ・ 1日目には全員で出来なかった後片付けが、2日目の朝食やおにぎり作りで

は力を合わせて最後までやれるようになった。

- ・ 2日目の早朝活動は、全員が声をかけあい5時に起床し遅れないで集合できた。
- ・ 2日目にあった男子児童のけんかでは、お互いの問題点を話し合っ解決することができた。

### ③観察評価結果（事業後）

〈母子生活支援施設職員〉

- ・ 事業中のことを施設に帰ると母親にすぐに話すなど、事業内容が楽しかったようで、第2回目の事業を楽しみにしていた。
- ・ 第1回目に釣ったザリガニを大切に世話している。
- ・ 母子生活支援施設の活動に積極的に参加するようになった。

### ④保護者評価結果（事業後）

- ・ 今回のような自然体験活動に参加させる機会が少ないので、感謝している。
- ・ 子どもが失敗しても立ち直りが早くなって、自信をつけたと思う。
- ・ 第2回での釣り体験やその魚を料理し食べたことで、魚料理が好きになった。

## 7. 成果と課題

- ・ 「野外炊事」（第1回2回，第2回1回 計3回）において自分たちで準備片付けを最後まで行ったこと、『グループ指示書』による「掃除」「入浴」を行ったこと、「お弁当づくり」「登山」等の新たな活動に挑戦したことなどが自信につながり『I K R 評定』の結果からも生きる力が向上したことが明らかになった。
- ・ 平成19年度～21年度「中国ブロック統合のメリットを活かした事業」報告書にある吉備青少年自然の家の「指示書の活用」による小学生への指導方法をプログラム（食事・掃除・風呂の方法）に取り入れたことにより，参加者が積極的に活動を行い規則正しい生活を送ることができた。
- ・ 第1回の野外炊事中に「中学校になってもここに野外活動に来るので，その時まで僕のことを覚えていてください。そして『おかえり』と言ってください」と小学校6年生が言ったことばや，事後アンケートで「交流の家の職員さんと手をつないで所内を歩いたことが楽しかった」の記述により，「参加者が，周りから受け入れられているという安心感を持った」活動ができたと思われる。
- ・ 第2回の事業終了後の『I K R 評定』調査では，第1回事業終了後の調査結果よりすべて下位となっており，宿泊を伴わない日帰りでの事業について課題があることが明らかになった。
- ・ 事業運営委員の母子家庭及び母子生活支援施設の状況説明により「基本的な生

活習慣の確立」を基本としたプログラムを実施し、「さまざまな場面でのふれあいを大切にすることにより参加者，保護者の満足度が高いものとなった。

- ・今回の事業により社会福祉法人広島和光園（母子生活支援施設），広島市こども未来局こども・家庭支援課（行政），財団法人広島市母子寡婦福祉連合会（団体）との連携関係を構築することができた。